

申第12号について窓口説明 浜松工場脱線事故に関して 本部本社間での協議を拒否！

会社は10月13日、『申第12号「浜松工場脱線事故」に関する申し入れ』について窓口における説明を行いました。

脱線という重大事故に関して、申し入れを行ってから2ヶ月もたっただけの会社の対応、しかも協議の場を持たず、幹事間における説明でお茶を濁すような会社の姿勢に対して、本部は厳重に抗議し協議の拒否について対立を通告しました。

申第12号(8月17日申し入れ)

「浜松工場脱線事故」に関する申し入れ

8月9日マスコミで、「8日午後4時45分ごろ、浜松市中区南伊場町のJ R 東海の浜松工場で、出庫のため走行していたN700系の新幹線車両（16両、約400メートル）が脱輪した。同社によると、脱輪したのは9～11号車で、車内に乗客はおらず、けが人はなかった。脱輪の影響で2号車部分が市道と交差する踏切で立ち往生し、市道が通行できない状況になった」「この踏切付近では2008年10月にも新幹線の試験車両が脱輪している」と報道された。

J R 東海労は、これが事実なら安全上看過できない事態だと考える。下記の通り申し入れるので誠意ある対応を行うこと。

記

1. 脱線の詳細について時系列で明らかにすること。
2. 脱線の原因について明らかにすること。
3. 運転士が異常に気づいたと報道されているが、具体的にどのような経過であったのか明らかにすること。

4. 2008年10月にも脱線事故が発生しているが、その時の再発防止対策はどのような対策だったのか。又、今回の事故の時に、その対策は施されていたのか。更に、対策が施されていた場合、対策が施されていたにもかかわらず、なぜ脱線が再発したのか明らかにすること。
5. 長時間にわたる踏切の通行止めや復旧作業により、多くの地域住民や通行する車両にご迷惑をお掛けしたが、その対応、及び陳謝について明らかにすること。
6. またもや発生した脱線事故の具体的な対策について明らかにすること。

【会社回答】

すでに地方において協議を行っているので、本社、本部間では協議は行わず、窓口において回答する。

1. 8月8日（火）、16：51頃、浜松工場庫7番線を出庫作業中のG19編成が走行中に9号車及び10号車全軸、11号車№.1軸（計9軸）が脱線し、2号車が市道の踏切（西伊場第一踏切）を支障した。そのため、8号車と9号車を切り離し、車両状況確認のうえ、21：54に1～8号車の転線を開始、21：59に踏切の支障を解消した。
翌9日から12日までの間、脱輪した9～11号車はクレーンによる載線をしたほか、線路や架線の復旧作業を行った。
2. 浜松工場内のみに設置されている。半径200mの急な曲線区間で且つ犬くぎでレールを固定している箇所において発生した。この箇所において、車輪がレールを横方向に押す力に対するレールの締結力が経年により十分でなかったため、レールをまくら木に固定している犬くぎが浮いて、レールが傾き、レールの間隔が広がったため脱輪した。
3. 16：51頃、構内運転士が、異常を知らせる表示を運転台にて確認して気が付いた。
4. 平成20年10月23日のZ0編成の脱輪事象は、分岐器トングレール先端部のレール摩耗により発生しており、分岐器トングレール先端部のレール摩耗管理を導入し、厳正に管理している。今回の事象との因果関係はない。
5. 16：51頃から21：59頃にかけて、G19編成の2号車が浜松工場西側に位置する市道の踏切（西伊場第一踏切）を支障した。西伊場第一踏切手前の交差点等では、警察と工場社員（12名程度）が通行者の誘導を行った。

6. 浜松工場内の半径200m以下の曲線区間において、レールを固定する部品を「犬釘」から「板ばね」に変更してレールの締結方法を強化する。当該箇所に関しては、8月14日に対応済みである。

《主なやり取り》

組合：2ヶ月もたってからの対応は遅すぎる。

会社：指摘の通りである。9月28日に幹鉄事で業務委員会を行っている。事象などを整理したうえで業務委員会を行うため、時間が必要であった。

組合：それにしても遅すぎる。また、本部、本社間ではなぜ協議の場を持たないのか。

会社：地方で協議を行った。地方で行う方が詳細に議論が出来る事象である。

組合：脱線という重大事故である。必要であるから申し入れをしている。地方でも本部、本社でも協議すべきだ。安全軽視、労組軽視の姿勢に断固抗議する。

組合：回答のなかで、「構内運転士が、異常を知らせる表示を運転台にて確認して気が付いた」とあるが、どのような表示だったのか。

会社：9号車の車体傾斜1、2系異常と聞いている。

組合：傾いたことで止めたのか。緊急ブレーキは動作していないのか。

会社：車両が線路から外れたことによる傾きで、傾斜異常となり運転士が止めた。

組合：線路が広がって脱線する等、前代未聞だ。どのような点検をしていたのか。

会社：1ヶ月に1回目視による点検をしていたが、異常なしだった。

組合：いきなり脱線などするものか。徐々に広がるなど、予兆があるだろう。

会社：異常はなかったと聞いている。

組合：今回は浜松工場の脱線だったが、200m以下の線路は車両所にもあるのではないか。

会社：あると思うが、犬釘を使用しているところはないのではないか。

組合：200m以下の犬釘を板ばねに変更するとしているが、すでに変えられたのか。

会社：200m以下のところが11ヶ所あり、9月28日に交換済である。

組合：201mのところはそのままなのか。

会社：200m以上の物も順次板ばねに交換していく。

組合：気が付いた問題点があればまた申し入れを行う。

会社：了解。

以 上